

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	さわやか愛の家たちあらい館		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 16日		～ 2026年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2026年 1月 16日		～ 2026年 2月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者アンケートで約9割が満足と回答しており、子どもが楽しく通えている。	朝礼・終礼での情報共有を徹底し、支援の振り返りや役割分担を毎日行っている。	5年以上の経験者配置に加え、外部研修も含めたスキルアップ機会をさらに増やす。
2	地域のイベントへの参加や、SNS・ブログを活用した日々の活動報告が活発である。	連絡帳のデジタル化を推進し、迅速な意思疎通と情報伝達を図っている。	夏祭りや運動会などのイベントを通じ、保護者同士や地域住民との交流をより深める。
3	アセスメントを通じ、一人ひとりのニーズに応じた個別支援計画が確実に作成・実行されている。	事業所内のバリアフリー化や、安全に配慮したスペースの区切りなど、環境面での工夫を継続している。	学校卒業後を見据えた障害福祉サービス等への移行情報の提供を、より早期から丁寧に行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者増加に伴い、子どもたちが過ごすスペースが狭く感じられる場面がある。	利用希望者の増加に対し、建物構造上のスペース確保に限界がある。	レイアウト変更やスロープ設置を計画的に行い、狭さを感じさせない安全な環境を作る。
2	緊急時マニュアルや身体拘束の基準など、保護者への具体的な説明や周知が一部不十分。	職員の交代が保護者の不安につながりやすく、関係性の再構築に時間を要する。	保護者会での職員紹介や丁寧な対面説明を増やし、職員の入れ替わりに対する不安を解消する。
3	自己評価は行っているが、第三者による客観的な外部評価を受けていない点。	アナログからデジタルへの移行期において、情報の確認漏れや報告速度にバラつきが生じている。	事後報告の迅速化を徹底し、保護者がより早いタイミングで状況を把握できる体制を整える。